

第9回 岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

日 時	令和8年7月17日（金）17時15分～19時15分		
場 所	諏訪市役所 大会議室（5階）		
出 席 （敬称略）	藤澤正、後藤慎二、宮坂享、三輪晋一、山田典史、高木克彦、白鳥和美、◎市川純章、高林千幸、※山口恭子、小松壮、木村明美、山田幸男、小口翼、長谷亮祐、牛越雅紀、中島勇吾、高木将太郎、蛭間聡一郎、久保田弥生、清水哲、小池拓斗、スズキヒロミ、有賀浩、松下明世、以上25名（※はオンラインによる参加）		
欠 席 （敬称略）	宮坂和幸、矢ヶ崎浩一郎、清水奈穂子、阿部恵二、以上4名	傍 聴 者	5名 報道関係4社
事務局	岡谷工業高校	生田教頭、御子柴教諭、見波教諭、松島教諭、小池教諭、清水教諭	
	諏訪実業高校	辻教頭（全日制）、山本教頭（定時制）、松下教諭、小川教諭、児玉教諭	
当日資料	第9回懇話会資料（全日制、定時制、学びのイメージ案を含む）、座席図		

会議事項

- （1）第8回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
- （2）校地検討部会報告
- （3）再編実施基本計画（案） 学びのイメージに係る意見交換
- （4）新校に向けた地域連携・学科連携の取組報告

意見交換（概要）

→事務局 ⇒座長

- （1）第8回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 質問意見なし ⇒承認

・懇話会のまとめについて、会終了後の早い時期に内容を確認したいという要望をいただいた。構成員にメールでまとめの案を送り、承認をいただいた後ホームページに掲載する。

- （2）校地検討部会報告

○基本方針 質問意見なし ⇒承認

1 現校地を活用することを原則とする。2 校地を併用することは原則として検討しない。3 校地検討会議および懇話会の意見交換を参考に、県教育委員会が校地を決定する。

○校地選定の検討項目 質問意見なし ⇒承認

1 校地、校舎に関わる環境、2 通学環境、3 学習活動を支える教育環境、の三つの大項目を設ける。今後、両校の校地の優位性を検討していきたい。

- （3）再編実施基本計画（案） 学びのイメージに係る意見交換

○定時制の学びのイメージ

・見出し「なりたい自分像」は生徒自身が決めるのではないか。育てる生徒像の方が良いのではないか。
→教員側の視点でなく生徒の視点から自分が目指す姿がイメージできるようにしたいため、引き続き表現を検討し再提案する。

・通信制との連携はどのような連携を考えているか。

→自分の学校にない科目を併修できる定通併修の仕組みの導入などを検討したい。

・通信制課程の南信地域の設置についてはどのように考えているか。→今後、検討していく段階である。

⇒学びのイメージは、新校が大切にしている理念や価値観を共有し、教職員と生徒が目指す姿や育成したい生徒像の方向性を明確にするものとして位置づけていく。

○全日制の学びのイメージ

（家庭科の学び）

・家庭科は衣食住、人生、生活設計のイメージがある。

・服飾分野だけでなくもう少し幅広くデザインを捉えたり、地域課題に取組んではどうか。

- ・「ものづくりを教育する」という表現には違和感がある。ものづくりそのものではなく、ものづくりを通じてどのような力や資質を育成するのかが伝わるとよい。また、新校ならではの特色や、従来からどのように変わるのかというメッセージが示されるとよい。
 - ・技術者が求められていることは間違いないが、一方で社会や産業界では幅広い能力を備えた人材も必要としている。育成する対象を「技術者」に限定するのではなく、より幅広い人材像を示す表現がよいのではないか。
 - ・就職を前提とした表現があるが、進学する生徒も増えていることを踏まえて、専門性を生かした進学先への接続や、進学後も専門的な学びを深めていける姿が示されるとよい。
 - ・商業教育の物やサービスの価値や良さを伝えることを重視している点に特色があるのではないかと。DXなどの新しい視点を取り入れつつも、これまで大切にしてきた価値観や強みを継承していくことが重要であり、それらを言語化して示すとよい。
- 各分野の学びの内容について、現在検討している段階であるため、いただいた意見を参考に検討する。また、表現についても伝わりやすくなるようにブラッシュアップする。

(4) 新校に向けた地域連携・学科連携の取組報告

- （生徒への質問）それぞれの学校の学びの中で、どのような場面で楽しさや面白さを感じるか。
 - ・自分たちで企画から運営まで考え、実践的に学べる諏実タウンは楽しく、充実している。
 - ・ファッションショーでは、製図などを含めて自分たちで考えながら制作し、仲間と協力して取組めたことが良かった。また、生徒会活動を通して他学科の生徒と関わり、友達が増えた。
 - ・高校では基礎的なことを学ぶため学べる内容には限界があるが、信州の名工について調べる課題研究では、より高いレベルの技術や技能を知ることができる点に楽しさを感じる。
 - ・実習で取組むスターリングエンジンの製作は難しいが、仲間と相談し合いながら作っていくところが楽しい。また、コミュニケーションを取る機会にもなり、良い関係がつくれている。
 - 共学共創コンソーシアムは設立できているか。また設立されている場合どのような体制か。

→共学共創コンソーシアムについては、現時点で組織体制や運営方法が固まっているわけではない。今後、学校と地域が連携しながら、継続的な取組みを支える仕組みを構築していく考えである。教員の異動による影響も踏まえ、地域人材の参画により、学びの充実と継続性の確保を図っていきたい。
- ⇒学びのイメージは、取組みを細かく規定するものではなく、新校の方向性を共有するための拠りどころとなるものである。本日は、方向性を広く示す意見と、具体的な学びの内容についての意見をいただいた。今後、事務局で学びの内容の検討を進める中で、さらにイメージが明確になっていくものと思われる。生徒にとって魅力があり、地域の方々も関わりやすい新校のイメージを掲げてスタートできると良いと考える。
- また、構成員の皆様には、本日の議論を選出母体に持ち帰り、幅広く意見を伺っていただきたい。それらの意見も踏まえ、さらに検討を深めていきたい。

その他

【次回懇話会】 調整中